

農楽里



2026年冬号

# ***norari***

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン

Vol.58  
Free

テーマ

# 山形に根付く

# INDEX

## テーマ

### 山形に根付く

干し柿ビールでサルが去る

細野地区

尾花沢市 4

人と農業を繋ぐ場所

くまきち農園

南陽市 6

遊休農地は宝の山？～荒れ地からはじめる農業革命～

株式会社アンスリーファーム

寒河江市 8

飛び出せ！高校生！！地域を支える技術者を目指して

10

地元食材を広める発信源！地産地消定食

お食事処 千起

新庄市 12

水土里ウォーク

さみだれ大堰～日本最大規模のゴム堰～ 戸沢村、庄内町 14

やまがたの食

遠山かぶ

米沢市 16

読者プレゼント

19



表紙

「春を待つ」(撮影場所：長井市)

第33回やまがた農村フォトコンテスト

一般の部入選作品

鈴木 亮 さん

農楽里

***norari***

元気な農山漁村をつくっていききたい。農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい。

農楽里(のらり)は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する手づくりの情報誌です。

norariは、山形県ホームページから  
もご覧いただけます。

(右記コードからアクセスできます。)





# 干し柿ビールでサルが去る

## 農地から放置柿に及ぶ鳥獣被害

毎年、全国を騒がせている鳥獣被害。その被害は、農村部だけでなく、住宅街の多い都市部にも及び、年々その範囲を拡大させている。尾花沢市の東南部に位置する細野集落。集落内の自然・文化・歴史・景観等の資源の活用と都市と農村の交流により、集落の活性化につなげていくことを目的に「清流と山菜の里ほその村（以下、「ほその村」という）」という団体が活動している。この集落の周辺の農地でも、サルやクマによる被害が発生している。近年では手入れの行き届かなくなった柿や栗等の庭木にまで及んでおり、それが農地に鳥獣を呼び寄せる一因になっている。ほその村代表の五十嵐幸一さんは、いずれその被害が住民にも及ぶ危険性を考慮し、手始めに放置柿の対策に乗り出した。

## 干し柿ビールへの挑戦

令和6年、五十嵐さんは収穫した柿の新たな活用法として、県内の様々な食材を副原料にクラフトビールを醸造する「Brewlab.108」(フューラボ・トウハチ)の加藤克明さんにビールに加工できないか持ち掛けた。今回使用する柿は、鳥獣被害対策を目的に実が熟す前に収穫するため、干し柿に加工してからビールにする工程とした。しかし、加藤さんの醸造所では、試作品を造る設備はなく、初めての試みでも一発勝負となる。成功する保証のない挑戦に、ほその村では、集落等の新たな取組の立ち上げに支援する県の事業「山形県元気な農村づくりスタートアップ支援事業」を活用することにした。

結果的に、12 kgの干し柿は、無事に1,000本のビールへと生まれ変わった。ほその村の女性グループ「友輪会」が運営する農家レストラン「蔵」での試飲や、今年の3月には道の駅ねまるや尾花沢市観光物産協会等での試験販売も行われた。干し柿特有のほんのり甘い香りと、やわらかい飲み口が楽しめるビールが完成し、特に女性に好評となった。

## 継続していくために

柿が熟す前に収穫したところ、毎年、放置柿を狙って現れるサルがその年は現れず、田畑を荒らす被害も少なくなった。放置柿をなくすることが鳥獣被害対策に繋がるといふ成果を得たほその村は、更なる柿の活用法も検討。農家レストラン「蔵」で天ぷらにして提供する干し柿の増産や、新たに柿渋作りにも挑戦している。

また、庭木の日常的な管理もほその村では引き受けている。しかし、住民の高齢化に伴い放置される庭木の量が増えており、管理するメンバーの負担が大きくなっている。今後、活動を続けていくためには、管理対象を絞ることも必要となった。そのため、所有者の意向を聞くアンケートを実施し、管理できない樹木は伐採した。伐採した樹木は、地元の小学生や観光客向けのナメコの植菌体験用に活用していく予定だ。

放置されていた庭木を活用しながら、集落の活性化につなげていくよう最善を尽くし、五十嵐さんたち、ほその村の挑戦は続いていく。



ほその村代表  
五十嵐幸一さん

## 「Brewlab.108」とは？

加藤克明さん・佐織さん夫婦が営む小さな醸造所。「Brewlab」は、英語の「醸造」「Brew」と「研究室」の略称である「lab」を組み合わせた造語。「108」は、煩惱の数と同じ108種類のテイスト作りを目指していることから。現在18種類のクラフトビールを生み出している。



## ビール瓶のラベルデザイン

鳥獣被害対策の意味を込めて、平安時代の絵巻物「鳥獣人物戯画」を模し、柿にいたずらするサルを五十嵐さんが追いかける様子がコミカルに描かれている。

## ビールの番号の意味

製造順ではなく縁のある番号をつけている。今回は、五十嵐さんの名字からとって「#五十」。



## 四季折々のメニュー

くまきち農園では地元で採れた四季折々の農作物を使い、ドリンク、ケーキ、パスタなどのメニューを提供している。季節ごとにメニューを一新することで、いつ来てもワクワク感を持てるようにしている。

また、管理栄養士のスタッフがすべての人に安心して美味しく食べてもらえるようにメニューを考えている。



地元野菜を使ったくまきち農園のメニュー

## 学習・交流の場を提供

くまきち農園では中学校、高校などに総合学習や職場研修の場を提供している。高校の地域活動では、学生がフードロステーマに米ぬかやりんごの搾りかすなどをを用いた焼き菓子を作り、接客・販売まで実践的な活動を展開した。

また、週末は農作物やハンドメイド作家による作品が並ぶマルシェやワークショップなどのイベントでにぎわっている。

遠藤さんは「様々なご依頼に対して基本的にNOと言わないスタンスで、積極的に受けています」と話す。



高校生がフードロスをテーマに作った焼き菓子

## 山形県の魅力を国内外へ 遠藤さんの想い

cafe mamenokiを始める前は県外で生活しており、そこで山形県の認知度が低いことを知り、悔しさを覚えました。山形県にはさくらんぼ、芋煮、米沢牛だけでなく、他県と比較してクオリティが高い美味しい農産物や料理がたくさんあるのに知られていないのです。山形県の魅力を県外や国外に発信して、いろんな人を知ってもらいたいと考えています。

山形県の良さを伝えるために、まずは置賜地域を盛り上げ、その結果を山形県全体に広げて、若い人たちが地元を誇りを持ち、留まりたいと思えるような地域にしていきたいです。



### くまきち農園

場所：山形県南陽市金山 5183

定休日：不定休

店舗連絡先：090-7177-7246

営業時間：11:00~19:00

### オンラインストア



### インスタグラム



## なぜ、くまきち？

米沢市のcafe mamenokiで、伝票にくまのイラストを描いたのがきっかけ。イラストはお客さんに好評で、今では「くまきち」はカフェの看板くまとなっている。



# 人と農業を繋ぐ場所 くまきち農園

オーナー 遠藤友紀さん

## くまきち農園

くまきち農園は南陽市金山地区にあるカフェレストランであり、自然豊かな環境を多くの人々に体験してもらい、地区と農業を盛り上げることを目的としている。オーナーは、米沢市でcafe mamenokiを経営している遠藤友紀さん。くまきち農園を開いたきっかけは、cafe mamenokiで金山地区の方から言われた「地区と農業を活性化させた」という言葉だった。

## 金山地区と農業の活性化に向けて

相談を受けた遠藤さんは、地区の活性化に向けて令和4年に南陽市の地域おこし協力隊となった。手始めに地区内の引退農家が所有する圃場でさくらんぼ栽培を始めたが、想像以上に人手が足りず苦労していた。そこで、cafe mamenokiで築いた米沢市内の学生との繋がりを活かし、学生に農作業のお手伝いを依頼したところ、予想以上の参加があった。学生からは「農業をやってみたかったが、そのきっかけがなかった」、農家からは「若い子が手伝いに来てくれると元気が出る」との反響があり、遠藤さんは若者と地域を結びつけることに可能性を感じた。

この体験とカフェ経営の経験を活かし、遠藤さんは若者と農業、そして金山地区を繋ぐ場所として、令和6年4月23日にくまきち農園をオープンした。通常のカフェ営業に加え、様々なイベントの開催や地区農家のお手伝いの窓口となるなど、地域の交流拠点になっている。

遠藤さんは、「農業には後継者不足という課題があります。まずは若い人に農業への入り口を提供し、楽しさや興味を持ってもらいたいです。そして将来的には、引退を考えている農家さんと農業をやりたい人をマッチングできる仕組みを作っていきたいと思っています」と話す。



# 遊 休農地は宝の山？

～荒れ地からはじめる農業革命～

## 「遊休農地とは？眠っていた土地の可能性」

山形県内には、かつては耕作されていたものの現在は荒れている「遊休農地」が多く存在する。その背景には後継者不足、都市部への移住などによる耕作者の不在がある。一方、こうした農地は、農業者をはじめとする地域の関係者が協力して周辺環境の整備や土壌改良を進めることで、再び生産の場として活用することができる。

今回は、一見条件不利に見える遊休農地をチャンスと捉えた農業者を紹介する。

## 「宝の山」に変わる遊休農地

寒河江市に拠点を置く株式会社アンスリーファームは、遊休農地を活用し果樹栽培を中心に事業規模を拡大している企業のひとつだ。

代表取締役である安達史倫あだちしゆんさんは、もともと飲食業界にいたが、就農人口が減少していることや収益性が低いことにより、農業が敬遠されている状況を知り、「農業の現状を変えたい」と地元仲間とともに一念発起して就農。しかし、農業を始めた当初は条件の良い耕作地が確保できず、やむを得ず借り手のいない遊休農地を借りることになった。そこで安達さんは、その状況を逆手にとり、農地の整備と併せて、新品種の改植や栽培技術の研究を進めた。その結果、県のさくらんぼ品評会で最高賞にあたる農林水産大臣賞を受賞。その高い評価が信頼を呼び、遊休農地以外の農地の管理もお願いされるようになった。

現在では、さくらんぼを含めた果樹の生産面積は約20haにまで広がり、そのうち2〜3割が元遊休農地。まさに、遊休農地が「宝の山」と呼ぶにふさわしい価値ある資産に生まれ変わっている。

## 「安達さんに聞く、遊休農地活用の利点と展望」

遊休農地活用のメリットは何ですか？

収益性の高い品種・品目への転換がしやすい点です。例えばさくらんぼは、近年の高温による不作へ対応するため、高温に強い品種や、さくらんぼ以外の品目へ植え替える判断が求められています。

既存農地の場合は、すでに収益を上げている樹を伐採する必要があるので、品種転換の決断は容易ではありませんが、遊休農地にはその制約がないため、新品種の試験栽培や育成に積極的に取り組むことができます。

デメリットや課題はありますか？

再生までに時間と労力がかかる点です。樹木が枯死していたり、土壌の劣化が進んでいる場合が多く、整備や改善の作業が必要になります。また、更地に戻したうえで定植する場合、収益化までには年単位の期間を要します。

今後の展望や地域への思いについて教えてください。

日本一の生産面積を持つ果樹園を目指しています。地域の農地を再生・活用することは、単なる経済活動にとどまらず、自然や暮らし、未来を守る活動だと考えています。生まれ育った地域を魅力ある地域として次世代に渡していきたいです。



(株) アンスリーファーム 代表取締役 安達史倫さん



(株) アンスリーファームの情報はこちらから HP: <https://anthreefarm.com/>



③ 定植 (新たな苗を植えて)



① 現状 (放置された農地)



④ 収穫 (立派な果実へ)

実がなるまで約5年。成木まで10年。



② 伐根 (根を取り除く)

重機を使って徹底的に！

## 「遊休農地の再生まで (イメージ)」

## 飛び出せ高校生技能実習で地域協働事業（通称「飛び高」）の概要

農業農村整備事業は、農地や農業水利施設などの基盤整備を行うことで、地域の農業の持続的発展を支える重要な事業であり、農作物の生産性向上および農村の生活環境の整備にとって必要不可欠な存在である。一方、近年の人口減少や若年層の県外流出により農業農村整備事業に関わる人員が減少し、問題になっている。

こうした現状に対し、山形県では、高校生に地域の農業農村整備事業の施工現場で専門的な体験をしてもらうことや農業水利施設での見学を通して、土木技術者への理解を深めて将来の職業選択の一つに加えてもらうとともに、普段学んでいる学校の授業の内容が、実際の社会でどのように活用され、どのように役立っているのかを知ってもらうための機会として本事業を行っている。



コンクリートの強度測定（柳沢ため池）



排水用ポンプの点検・調整（茨野排水機場）

### Q, 飛び高に参加してみてどうでしたか。

学校では主に土木分野について学んでいるが、今回の飛び高を通して土木分野と農業分野のつながりについても知ることができて、それぞれの関係を学ぶ貴重な経験になりました。

学校で測量の実習をしているが、この事業では実際の現場に行くことで、学校で培った知識が現場でどのように活かされているのかを知ることができて、今まで以上に土木分野に興味を持つことができました。

今回の飛び高を通して、普段体験することのできない貴重なことを学ぶことができました。また、農業農村整備事業は、私たちの生活を支えているなくてはならないものだと感じました。

授業では現場の様子や使用する機械、計算方法などを教科書の写真や実習を通して学んでいるが、この事業では実際の現場の空気感や人とのコミュニケーションを実際に体験することができてとてもためになりました。



大雨災害復旧現場の測量（酒田市）

### 環境技術科担任の先生の思い

授業では学習していない農業土木分野について知るいい機会となっていて、視野を広げることができると考えています。

この事業を通じて、農業土木分野は食につながる分野であり、私たちの暮らしの支えになっていることを感じてほしいです。



酒田光陵高校  
阿部 諭 教諭

# 飛び出せ！高校生！！

## 地域を支える技術者を目指して



頭首工と小水力発電施設の見学（日向川頭首工）

### 土木技術者を育成する「飛び高」

飛び出せ高校生技能実習で地域協働事業（通称「飛び高」）は、地域の未来を支える土木技術者の育成を目的とした事業である。県内各地の高校を対象に平成21年度から実施している。

近年、農業農村整備事業は農業土木分野に加えて、豪雨災害の頻発・激甚化や、大規模地震のリスクが高まっていることから、地域の安全・安心へ寄与する役割が求められている。令和7年度の「飛び高」では、令和6年7月の豪雨災害の復旧現場やため池改修工事の現場、排水機場の見学といった、地域の災害復旧や防災・減災に関連するカリキュラムを増やして実施した。庄内地方では今年度、山形県立酒田光陵高校環境技術科の3年生6名が計6回の実習に参加した。

### 「飛び高」に参加した高校生の思い

実習に参加した学生の中には、令和6年7月の豪雨災害ボランティアに参加した学生もいる。ボランティアでは、被災した家屋の泥出しや家財の運搬等の作業を行った。災害ボランティアと「飛び高」の体験から学生は、「周りと話し合い、安全意識や施工のスピードに常に気を配り作業をしていきたい。そして災害に強い土地や建物をつくり、安全・安心な施工を行う技術者になりたい。」「自然災害に強いインフラ整備に貢献し、安全・安心な社会をつくる技術者を目指したい。」「と、地元の安全・安心を守りたいという強い思いを抱いていた。

また、土木技術者の志望者が減っている現状に対して学生達も危機感を抱いており、「自分たちがこの事業で経験したことを基に、土木の魅力について発信していきたい。そして、土木に興味を持つ若者を増やせるように頑張りたい。』と語った。

## 新庄東高校と共同開発した地産地消定食



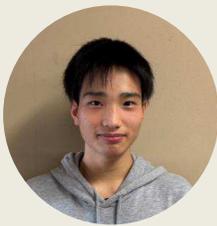
### 新庄東高等学校の生徒にインタビュー



高校1年生から3年生までの3年間、地産地消定食の活動に携わりました。

3年間のメニュー開発の経験を活かし、家族に地元食材を使った料理を振舞いたいと思います。

メニュー開発をする中で、食材のよさを活かす調理法を考えることが難しかったです。「千起」との共同開発を通して、地元の食材に対する理解を深めることができました!



2年 佐藤璃空さん

お問い合わせ先はこちら! 最上総合支庁農業振興課



最上伝承野菜(Instagram)



最上伝承野菜(Facebook)

### 千起にインタビュー



お食事処 千起  
いまいのぼる  
今井昇さん

地元食材の知名度アップに貢献したいと考え、高校生と連携をするようになりました。

高校生との連携の結果お客さんが増え、メディアに取材もされるようになったことで、最上地域の食材のPRにつながっていったと思います。

今後は、農家の方たちとの連携を行うなど、新しいことにも挑戦していき、皆さんに喜んでもらえるような活動をしていきたいです。

次回の地産地消定食の提供日は2/6(金)  
新庄北高校とコラボ予定!

## 地元食材を広める発信源!

## 地産地消定食



**地元食材を使った「地産地消定食」**  
最上総合支庁内の食堂「千起」では、最上地域で古くから栽培される最上伝承野菜をはじめとした、地元の食材を使用した地産地消定食を毎月1回提供している。この取組みは地域に根付いた食材の魅力を発信することを目的に平成20年から始まり、今年で17年目を迎える。

**高校生との関わり**  
「千起」では、地元の各高校で調理を学ぶ学科や部活動に所属している生徒と連携し、年に数回、高校生と共同開発したメニューで地産地消定食を提供している。

メニューの開発は、高校生が最上伝承野菜や地元食材について学ぶことから始まる。提供する季節に合った地元食材とテーマを選定し、食材を活かしたメニューを考案。「千起」ではそれが実現可能かどうかを判断し、高校生と「千起」による試食会を経てメニューが決定する。

メニュー開発に携わった地産地消定食の提供日には、高校生も食堂内で接客や案内に立ち、直接お客さんの意見や反応に触れる。

「千起」は高校生の多彩な発想をメニュー開発に活かすことができ、高校生にとっては、食材の理解から提供に至る流れを一貫して経験できる貴重な実践的学びの場となっている。

**提供日の接客時の様子**

水

土

里

ウォーク



# さみだれ大堰

～日本最大規模のゴム堰～

## の最上川の水を農地へ届ける

国土交通省が管理する「さみだれ大堰」は、日本最大規模のゴム堰で長さは約200mある。ゴム堰とは、ゴム製の袋に空気を入れて膨らませ、水をせき止めて水位を上昇させるものだ。

最上川は、豪雨のたびに立谷沢川から土砂が流れ込み、最上川との合流地点に土砂がたまりやすくなっていた。その土砂をそのままにしておくと、洪水時に下流の地区で水害が発生するおそれがあるため、定期的に撤去する必要がある。しかし、土砂を撤去すると川の底が下がり、それに伴って水位も下がることから、夏の渇水期には上流の取水施設（草薙頭首工・最上川取水口）で農業用水を確保できなくなるおそれがあるという矛盾を抱えていた。

さみだれ大堰の建設により、ゴム堰を起立させて水位を上げること

で、上流の取水施設を効率的に利用できるようになった。併せて、土砂撤去も可能となり、農業用水の確保と下流域の水害防止に大きく貢献している。

## の環境に配慮した堰と学びの場

さみだれ大堰は、魚の移動を妨げないよう、兩岸に魚道を設置し、自然環境に配慮している。右岸側には、魚などを観察できる「フィッシュギャラリー」を備え、一般に開放もされている。この施設は、周辺地域の児童・生徒だけでなく、県内各地から多くの人が訪れる。

管理者の酒田河川国道事務所の担当者は、「堰の建設において魚道を設け、環境にも配慮していることを理解してもらっている。」と語った。

**魚道とは？**  
魚は産卵場所や生育場所を求めて上下流へ移動するが、堰などの障害物があると移動できなくなる。そこで、魚の通り道を確保するために魚道を設置するもの。

# さみだれ大堰 周辺マップ



⑤ 堆積した土砂

④ さみだれ大堰

③ フィッシュギャラリー

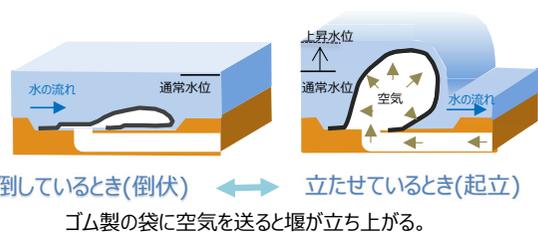
併設されているフィッシュギャラリーは、魚道(魚の通り道)の側壁に窓をつけ、最上川を泳ぐ魚の姿を観察することができます。

サクラマスやアユなど多くの魚を観察することができます。

② 最上川取水口

① 草薙頭首工

## のゴム堰のしくみ



### ワンポイント

急激な水位の変動を避けるため約3時間かけてゆっくりと操作(起立・倒伏)をする。実際に使用していたゴム堰がフィッシュギャラリーの駐車場に展示されている。完全に起立したときの高さは、2.7mになる。



ゴム堰の実物模型

お問い合わせ 酒田河川国道事務所 河川管理課 (国土交通省) TEL : 0234-27-3497



# 読者プレゼント

本誌8～9ページで紹介したアンスリーファームのさくらんぼを使用した、さくらんぼ蜜煮のゼリーつつみ「プチジェリチェリー」を3名様にプレゼント。

ご応募は、下のアンケート回答フォームから回答いただくか、応募はがきに記入してお送りください（はがき可）。本ページは山形県ホームページからも印刷できます。

アンケートの回答フォームはこちら



- ※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。
- ※ご応募によって得られたアンケートの情報は、個人情報を含まない形で誌面への公表等に使用させていただく場合があります。
- ※プレゼントの応募締切は、2026年3月31日です。

山形県ホームページから norari のバックナンバーをご覧ください。右記コードからアクセスしてください。



宝石のようなフルーツゼリー  
『プチジェリチェリー』

3名様



## 地域活動情報をお寄せください。

85円切手を  
お貼りください

〒990-8570  
山形市松波2-8-1  
山形県農林水産部農村計画課  
**norari 事務局 行**

氏名

住所 〒

電話番号

### 読者プレゼント希望欄

プレゼント希望の場合は、「レ」を付けてください。  
応募締切は、2026年3月31日（消印有効）です。

### アンケートにご協力ください

- Q 1 本誌の内容はいかがですか？  
 おもしろい  普通  つまらない
- Q 2 皆さんの活動や産品で本誌に掲載してみたいものがありましたらご記入ください。
- Q 3 本誌に関するご意見をご記入ください。

のらり親父のつぶやき



『誕生日プレゼント』

私の誕生日に、家を離れている息子から珍しくラインが届いた。

誕生日おめでとう！ プレゼント 何か欲しい物ある？

どうした風の吹きまわしかわからないが、とても嬉しい便り。気恥ずかしい思いもあり、少しおどけてラインを返した。

今一番欲しいのは『若さ』かな

すると、すぐにラインが来た。

無理

それから半年経つが、息子からは何の連絡もない。

春号は3月下旬発行予定！

発行 norari 編集委員会  
〒990-8570 山形市松波 2-8-1  
山形県 農林水産部 農村計画課  
「norari 事務局」 Tel 023-630-3077  
協力 山形県農村振興技術連盟  
山形県土地改良事業団体連合会

# 地区の未来を考える めいじ 明治地区(山形市)



「元氣な農村(むら)づくり総合支援事業」は、地域づくりを応援します!

明治地区は山形市の北西部に位置し、山形盆地のほぼ中央を流れる須川に、白川(馬見ヶ崎川)と立谷川が合流する場所です。山形市山寺から西川町間沢を結ぶ「さくらんぼサイクリングロード」が地区内を通り、西に「月山」、「朝日連峰」、「葉山」、東に「蔵王」を一望しながらサイクリングを楽しむことができます。

令和7年2月に開催した地域づくり講演会をきっかけに立ち上げた「明治地区の未来を考える会」が発起人となり、地域住民が一堂に会して持続可能な地域づくりについて話し合う、ワークショップに取り組んでいます。1回目のワークショップでは、数班に分かれて現場を歩き、気づいたことを点検マップにまとめました。2回目のワークショップでは、明るく元気で住みやすい明治地区の実現に向け、前向きな提案を出し合います。この取組みでまとめた成果は、今後の明治地区の地域づくりに活かしていく予定です。

元氣な農村(むら)づくり総合支援事業は、地域が主体となって取り組む地域づくりを応援するものです。地域で実施する話合いや地域での活動を進めたいが、誰に相談したらよいかわからない。悩める市町村の担当者や地域の皆さん、そんな時は下記の窓口にお気軽に相談してください。



お問い合わせ先 村山総合支庁 農村計画課 TEL 023-621-8389 最上総合支庁 農村計画課 TEL 0233-29-1339  
置賜総合支庁 農村計画課 TEL 0238-26-6056 庄内総合支庁 農村計画課 TEL 0235-66-5549  
県庁農村計画課 農村づくり担当 TEL 023-630-2948



norari 2026年冬号 発行/ norari 編集委員会 2026年1月30日発行 〒990-8570 山形市松波2-8-1 山形県農村計画課「norari 事務局」 TEL 023-630-3077